

広報九州



平成22年2月10日

(2010年)

No 1657

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/>



馬場教授をコーディネータにパネルディスカッションの参加者

『西表島シンポジウム』を開催 保全や利用方法など活発な意見を交わす

1月16日、沖縄県八重山郡竹富町西表島の竹富町離島振興総合センターにおいて、当局主催による「西表森林環境シンポジウム」を開催。

同シンポジウムは、西表島における森林環境の保全や利

用についてこれまでの取り組みを踏まえ考えるもので、関係者を含め約100人の方々が参加しました。

はじめに、沖修司九州森林管理局長が主催者挨拶後、川満栄長竹富町長が来賓を代表して挨拶。

その後、

西表森林環境保全ふれあいセンターをはじめ3者による活動報告、琉球大学熱帯生物圏研究センター馬場繁幸教授の基調講演、パネルディスカッションを行い、これからの西表島における森林環境の保全・利用などについて討論を行いました。

活動報告では、はじめに

沖縄森林管理署および西表森林環境保全ふれあいセンターが、西表島の国有林においてこれまで

で活動してきた保全と利用についての取り組みを報告。次に、仲間川保全利用協定の事業締結の代表者が仲間川周辺の環境負荷を軽減するための取り組みについて報告。最後に地元小中学生からなる西表ヤマネコクラブが12年間に渡り取り組んできたイリオモテボタル生態調査、ピーチクリンアップの取り組み、川の水質調査などについての活動を発表しました。

基調講演では、馬場教授が「西表島のマングローブ林の現状と課題について」と題し、海外の地球温暖化による海面上昇の現状や西表島とガラパゴスの成り立ちの違いなどについて講演。また、島外から街路樹として導入すべきでないことなどを訴えられました。最後に、西表島の自然を守るためにはこのような機会を多くもつことが大切と強調されました。

引き続き、馬場繁幸教授をコーディネーターに迎え、竹富町の川満栄長町長、環境省西表自然保護官事務所の前田博文自然保

護官、仲間川保全利用協定事業締結者代表の藤崎雅夫氏、西表島エコツーリズム協会の伊谷玄事務局長、地元を代表して大富地区の山城まゆみ区長、沖縄森林管理署の平沼孝太署長、西表森林環境保全ふれあいセンターの杉野恵宣所長をパネラーにパネルディスカッションが行われ、「西表島の森林の保全とふれあいの推進」について討論が交わされました。また、会場からも、西表島の大部分を占める国有林の森林の管理、休耕田のあり方、漂着ゴミによるマングローブ林の影響、森林保全のためにはカイドの資質の向上が必要など活発な意見がだされました。

同シンポジウム会場には西表島の小・中学校の児童生徒の活動や当局の森林保全などに関する活動を紹介するパネル展示コーナーも設けられ、会場を訪れた方々は熱心に見入っていました。

今回のシンポジウムでは、西表島の環境、国有林の森林保全などに対するさまざまなご意見をいただきました。今後、出された意見なども踏まえるとともにこれからもこのような機会をつくり、西表島の森林環境の保全と利用について取り組んでいきたいと思っております。

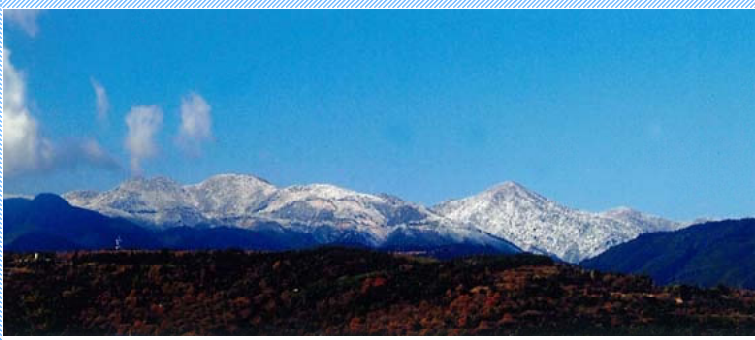
(担当：指導普及課)



西都児湯森林管理署
都農森林事務所

森林官 引地 修一

尾鈴山は、標高1405mで九州山地の東部、宮崎県中央部の都農町と木城町の町境に位置し、頂上部から南東方面への穏やかな山並みの稜線を呈する優美な山容を広範な地域から遠望できることから地域のシンボルとなっています。



冠雪した尾鈴山を麓から望む（左から矢筈岳、長崎尾、最高峰が尾鈴山）

尾鈴山「1405m」 名山と瀑布群の名勝地

尾鈴山一帯は尾鈴県立自然公園に指定されており、その稜線には南限であるコウヤマキ群生地を保護するための尾鈴植物群落保護林が、奥懐の渓流域一帯はタブノキ、イチイガシなどが生育し尾鈴林木遺産資源保存林とキャンプ場を備えたレクリエーションの森に設定されています。

尾鈴山を源流とする名貴川の上流域は、石英斑岩で水を通さない岩質であることから滝が多く、日本の滝百選に選定された「矢研の滝（落差73m）」をはじめ大小30もの滝が点在していることから、昭和19年に国の名勝「尾鈴瀑布群」として天然記念物に指定されています。

植物は、世界でも尾鈴山にか見られないと言われるキバナノツキヌキホトトギスや、ウラシロミツバツツジ、ナガバナサンショウソウなどの固有種や多様な植物が分布しており、季節を追って多くの花が咲き誇ります。



矢研の滝（落差73m）

このような優れた多様な自然を活かし、地元都農町や観光協会等では、春には山開き登山、夏にはキャンプ場開きと滝めぐり、秋にはもみじ狩りなど四季折々の観光行事を催しています。中でも4月29日の尾鈴山山開き登山は、毎年大勢の愛好家が集い開かれます。キャンプ場をスタート地点にヒメシヤブ、アカガシ、モミ、ツガなどの樹林内を全身に汗して歩き、晴れた日には雄大な日向灘と一ツ葉の海岸線を遠望しながら150分位で登頂の達成感を味わうことができます。復路は、山頂から南下し比較的平坦な稜線部を歩き、コウヤマキが巨岩に寄り添い岩を抱く生命力に感銘を覚え、シャクナゲ、アケボノツツジ、ヒカゲツツジなどの花木を堪能しながら17

0分位で帰着できます。参加した愛好家は、地域の皆さまの人情とおもてなしの心に毎年満喫して笑顔で散開されています。



キバナノツキヌキホトトギス（固有種）

このように尾鈴山一帯は、多様な植物と溪流や巨岩が織り成す名貴川の渓谷美と相まって、登山の外、新緑や紅葉など春夏秋冬の美しい自然のたたくまを探索する多くの人々に心の癒しや憩いの場所として親しまれています。登山や森林浴などの愛好家の皆さん、折々の季節に尾鈴山の自然を探索してみませんか。

最後に、私たちが先祖から引き継いだ貴重な財産を後世の人々に残していけるよう、今後とも関係者と連携しながら尾鈴山一帯の保全活動に取り組んでいきたいと思えます。

児童44人が木工に挑戦

【佐賀森林管理署】神崎市立

脊振小学校で5・6年生の児童44人を対象に「遊々の森」森林教室を行いました。これは木工工作を通じて「木のぬくもりにふれてもらおう」と、NPO法人森林監視隊、学校支援ボランティアと佐賀森林管理署の共同で行ったもの。森林ふれあい係長から作成手順などの説明を受けた児童らは、5年生は「たから箱」作り、6年生は「本立て」作りに挑戦しました。体育館には、「ギョギョ」と鋸を引く音が「トントン」とハンマーの音が響き渡る中、時折、笑い声も聞かれ、楽しい森林教室となりました。完成した作品はどれも個性豊かに出来上がり、これから長く大切に使うことを皆で約束しました。



夢中に鋸を引く児童=佐賀



加治屋光次さん

私が生まれた昭和13年、大隅半島に上陸した台風による豪雨は、国見山地の急峻で距離の短い河川を土石・立木を巻き込みながら一気に駆け下って町を飲み込み、わが村だけで88人もの死者・行方不明者を出し人家・

田畑に大災害を引き起こした、と伝えられています。

戦後、経済林への転換から全国的にスギ・ヒノキへの改植が進みましたが、その結果、とくに根系劣化による林地崩壊への危惧の念を強く強く持つようになりました。加えて林業

低迷でほとんどの山林が放置され、豪雨禍の多発と合わせると、今は

ど治山・治水の必要性を思うことはありません。施業においては針広混交林への転換を求めたいと思います。

昨年、島原市でのモニター会議で治山の現場を視察し、その必要性と実績を学びましたが、

山を育て安全を守る

農林水産物のブランド化も視野に、NPO法人「大隅照葉樹原生林の会」を立ち上げ、大学や綾の照葉樹林・地元自治体などと連携して自然や資源の保護に動き出しています。

木は私たちの生活に大きな恵沢を与えてくれます。誰でも手

た不安がピークに達し、トキドキでした。しかし、心配をよそにパソコンは正常に起動し、現在も障害もなく活躍しています。(たぶん)

小さな挑戦でしたが、未経験のことができたという達成感があり、充実した気分を得ることができました。人生にとってこんなことが非常に大事ではないかなとも感じました。これからも、小さな挑戦を重ねていきたいと考えております。(熊本森林管理署長 高信好彦)



年末年始で帰郷の際、組み立てパソコンの製作に挑戦してみました。

息子のパソコンの買い替えのお手伝いで、評判の良いWindows 7への乗り換えです。キーボードやモニターなどは使えるので、買い替えは本体のみとし、安くあげるためには組立にすることにしました。事前に、メーカーやPCパーツ店のホー

小さな挑戦

早速組立作業に着手。接続箇所を悩みながらの作業でしたが、PCケースが大きいので、作業がし易く、ことのほか順調に作業が進行。電源をONにする時は、本当に起動するのかわか

ができませんでした。人生にとってこんなことが非常に大事ではないかなとも感じました。これからも、小さな挑戦を重ねていきたいと考えております。(熊本森林管理署長 高信好彦)

間伐協議会を開催

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町の波留国有林内において、当署職員をはじめ、県や五ヶ瀬町役場職員、霧立山地の自然環境を守る会、スキー場職員、公民館長など14人が参加の下、「景観を考慮した間伐協議会」を開きました。協議会では、流域管理調整官がこれまでの景観に考慮した間伐の取り組みや間伐後の林分の現況、稚樹の発生状況などを説明の後、意見交換を行いました。当署では、委員



現地で協議を重ねる参加者＝宮崎北部

の方々から出されたシカ対策などの意見を参考に施業を実施していくことにしています。

人のうごき

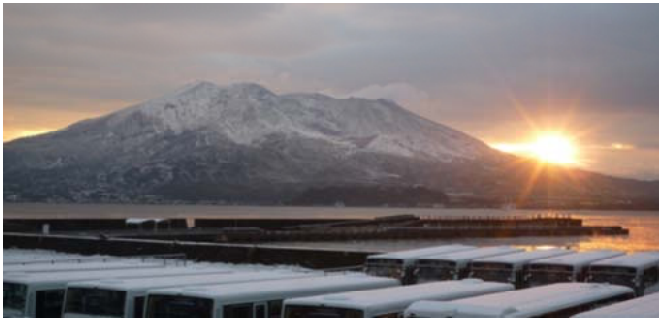
2月1日付森林管理局長発令
熊本森林管理署
野田秀治(福岡署)

◆ながい間ご苦労さまでした◆
1月31日付森林管理局長発令
宮島章(計画部付)

お悔やみ申し上げます
中西 忠雄 様
局職員厚生課勤務、農林水産技官 中西忠雄様は1月22日、ご逝去されました。(44歳)

桜島も雪化粧

【鹿児島森林管理署】鹿児島
の象徴である「桜島」。昨年は
爆発回数が過去最高となるなど
火山活動は活発化しており、今
後新たな噴火も予想されるほど
桜島の内部は熱く燃えていま
す。しかし、その熱を下げるか
の様に1月13日の未明からの降
雪により市内はもちろん桜島全
体が雪化粧をし、朝陽も一段と
輝きを魅せていました。偶然に
も当日は出署日となっており、
全職員が一丸となって桜島に負
けないように明るくそしてドッ



雪化粧した桜島の夜明け（庁舎より）＝鹿児島

シリ構え、今年も災害のない健
全な職場作りに努めようと誓い
を新たにしました。

第1回運営会議を開催

【熊本南部森林管理署】昨年
9月に締結した「五木地域森林
整備推進協定」に基づく第1回
運営会議を開きました。同会議
には、当署、森林農地整備セン
ター熊本水源林整備事務所、住
友林業日向山林事務所、九州横
井林業と立会人である熊本県、
五木村、山江村に加え森林組合
など地元関係者を含め27人が参



私が小さいころ、森や野原
の草木になる食べられる果実は
格好のおやつであった。シャシャ
ンポも果実が熟すと美味しけれ
た。味は今流行のブルーベリー
（同属）そっくりの甘酸っぱい
味がする。ところが全く同じよ
うな果実のなるのにヒサカキが
ある。おやつ欲しさにヒサカキ
をシャシャンポと間違えて食べ
ることがあった。食べると味は
なく果実の汁で口の周りがイン
ク色になり、すぐに間違っ
て食べたことがばれるのであった。

暖帯林の痩せ地に生える常緑

加。1日目は、五木村役場の会
議室に於いて、①運営会議の構
成と進め方②路網整備の進め方
③共通図面の作成④共同施業に
ついてなどを検討しました。2
日目は、九州横井林業の現地で、
現場の状況などの説明を受け、
路網のネットワークなどについ
ての検討が重点的に行われまし
た。また、路網整備の必要性が
さらに高まることから、お互
い連携を図りながら進めること
になり、今後の更なる森林整備
の推進が期待されます。

30 シャシャンポ（ツツジ科）

の高低木である。灌木状に大き
くもなる。古木になると幹の肌
が赤黒くなり縦筋が入る。シャ
シャンポの見分け方は、葉裏の
主脈を葉先から葉元へ指で触る
と棘のような凹凸を感じる。こ
れが一番の見分け方である。ヒ
サカキにはこの棘状の感覚はな
い。

名前はササンポつまり「小小
ン坊」の意味で果実が丸く小さ
いことからと牧野図鑑で解説さ
れている。決してシャシャンポ
ではなく別名（方言）にもない
ことに留意する必要がある。

樹木園の一番奥西側に人文の
シャシャンポがある。夏には葉



の下に下向きの白い筒状の花を
咲かせる。



路網整備の進め方など検討する参加者＝熊本南部



2月は、「JA植木まつり」
（1月23日～2月22日）およ
び「くまもと香の植木市」（2
月1日～3月10日）が開催され
ており、小生はマイホームを購
入してから毎年のように庭木を
探しに会場を訪れている▼庭が
狭いうえに、毎年のように植木
を購入しているせいかだんだん
スペースがなくなってきたり、
鉢やポットに植えることが多く
なりつつある▼近年では、品種
改良が進み、花の色が増えてき
ており、また、葉も斑入りのも
のなどがあり、見る人の目を楽
しませている▼この時期は、落
葉樹の剪定や消毒の時期でもあ
り、休日は寒さにも負けず庭に
出る機会が多い今日この頃であ
る▼特に剪定は、将来の樹形を
イメージして、本やインターネット
を参考に迷いながらの作業で、
あっという間に時間が過ぎてし
まう▼今年は、狭いスペースで
も可能な盆栽にも挑戦してみよ
うと思っており、早速、鉢や土
等を購入してきたところで▼
自宅の庭で収穫した野村もみじ
の種を蒔いて寄せ植えに仕立て
ようと思っております（忠）